



発行所：ほかにわ共和国
発行責任者：志賀俊紀
編集責任者：ほかにわ広報部



ほかにわ共和国

二十年の進化と軌跡

理事長 志賀俊紀

新玉の年の初めに能登半島地震と羽田の日本航空の事故、乗客は全員生存、海上保安庁では五人の死亡は痛ましかつたが、外国のメディアは奇跡だと報じている。私も過去、そうした事故にあやわ遭遇しそうになった時があったが、体調不良で研修会を欠席したため免れた。昭和五十七年二月、



ほかにわ八幡神社 鳥居前



今迄とこれからの経営戦略

今迄を<是迄>に、これからのを<是からの>にした言葉遊びで<是>で変換すると過去・現在・近未来のイメージになる。

法人設立から20年を目前に控え、平成17年から現在までを振り返ると、八雲寮が精神薄弱更生施設で開設され、ほかにわの主体的事業所であった。旧法人八幡会から平成18年3月より八雲寮・デイ雲、悠炉里の事業が分離独立した。

将来の展開を見据え、有家町にデイ雲柿の木、及び、グループ柿木のホームを運営するなど、障害児者のニーズに合わせて開設してきた。

20年経つことで当然のこと、利用者の高齢化は進行した。勿論ながら、新規利用者獲得の営業力強化や、支え手である職員の確保の重要課題もどうにかクリアしてきた。

最近では働き手の不足が問題になっているが、設立当時は新卒学生の入職が定期的にあったし活気もあった。しかしながら、ここ数年を振り返ると新卒学生の採用は見られない。その裏には、少子化問題にて、学生の減少や、福祉施設の増加による売り手市場と買い手市場のバランス不均衡がある。そんな中でも事業継続のために、魅力ある職場作りに取り組み、売り手市場にアピールしなければならない。また、サービスの質向上に向けた職員のスキルアップなど、多岐に渡り課題がある。一つひとつずつではあるが、課題の整理を行い、原点回帰に向けて職員一同が一致団結して取り組みたいと考える。

法人事務局長 志賀常盤

羽田沖の日航機不時着事故であった。

能登半島地震では私たちと同じ仲間の安否が気にかかる。雲仙普賢岳噴火の救援が思い起こされる。さて、事業体は常に進化しているが、災害時においても同じことが展開されてゆくのである。私も今年で八十の太台に乗った。思えば思えば走馬灯のように巡ってゆく。そしてその起点はどこであるかを考えてみた。

ほかにわ共和国の起点は、八雲寮の開設昭和四十五年である。大阪万国博覧会が開催された年である。高度経済成長に入ろうとした活気あふれる時代だった。当時は精神薄弱者の呼称で、差別用語であるという名称改称運動が展開されていたが、障碍者の福祉文化を論じ、実践する施設は皆無だった。八雲寮は、福祉文化実践の旗を掲げ突進した。私も若かった。すべてが挑戦であった。ほかにわ共和国は福祉文化史という視点でこれまでの実践を問い直し、更なる飛躍の二十年を目指す記念の年となる。

「ほかにわのない オンリーワンの躍進」である。

今回は、雲仙市小浜町「小浜食糧株式会社」の吉田工場長にお話をお伺いしました！

地域の方の声



小浜食糧株式会社 吉田工場長

以前よりクルネットやはたさんには、行って頂いています。急なお願いにも対応して頂き、大変お世話になっていきます。利用者の大村君が、工場勤務するようになり、五年目を迎えます。いつも黙々と直向きに作業する姿には、感心させられます。機械のスピードにも対応することができ、今ではなくてはならない存在となっております。今後も、ほかにわ共和国さんとは深く関係を続けていきたいと思っています。



私が働く理由

平成三十五年四月入社

デイ雲柿の木 副主任 佐藤 祐太

私が働くきっかけとなったのは、まだ私が高校三年生で就職活動を始めたばかりの時に、学校の先生から、「ほかにわ共和国から運動会のサポーター募集の案内が来ているから行って見ない？」と言われて、参加したことでした。

福祉に興味を持っていたわけではなかったのですが、最初はなんとなく「行ってみようかな」というくらいの気持ちでした。当初、私の中で障がい者というイメージが強い、日常で関わる機会もなかったため、全く未知の世界で不安な気持ちだったのを覚えています。

いざ、運動会に参加してみると、そこにはたくさんの人たちがいて、利用者、職員、サポーター、その他関係者と、参加者の多さにびっくりしました。運動会が始ま

るまで、入場行進の体系に並んで待っていたのですが、利用者の方達の表情を見ていると、みんな生き生きとされていて、運動会が始まり、いろんな競技が行われていく中で、「障がい者施設の運動会はこの間にも活気があるんだ」と衝撃的でした。運動会が終わり、最後にサポーター表彰で呼ばれ、理事長から表彰を受けたときはすごく達成感を感じました。そこから福祉に興味を持ち、ほかにわ共和国で働いてみたいと思い、この職に就いています。

ほかにわ共和国の法人理念の一つに「共汗教育」があります。普通なら「共感」という意味を考えますが、ほかにわでは、「利用者と共に汗をかいて、共に育つ」という意味を込めて「共汗」を使います。私たちは日々、利用者の方達と一緒にたくさん活動をしています。



入社当時の佐藤さん

平成25年6月20日発行 第28号より

- ①名前
- ②趣味・特技など
- ③好きな言葉
- ④今後の抱負

ほかにわ共和国の動き

- 2/ QC活動発表会
- 3/ 理事会
- 4/ 辞令交付式

『原点を見つめて進化を目指す』



第47回 ほかにわ共和国新年職員研修会
テーマ「原点を見つめて進化を目指す」

年明けの一月五日、第四十七回ほかにわ共和国新年職員研修会が開催されました。年頭にあたり理事長は、法人設立二十周年を迎える節目の年に、これまでの歴史を振り返り、これからどのように進化するか、発行する記念誌に皆さんの思いを込めたいと訓辞をされました。更に外部講師として、お招きした(福)白鳩会理事長 中村隆一郎氏より「どう進化したらいいのか(自問自答)する」をテーマに講演して頂きました。講師と法人内の各施設長との討議は、これまでになく研修内容で、展開を期待して頂きました。しかし、討議のテーマと講演

私が所属する「デイ雲柿の木」では、パンや手織り、野菜などを作る作業班があります。また、年間を通して様々な行事も行っています。そういった活動をする中で、利用者さんの反応というのは素直でわかりやすいことが多く、楽しんでいられるときは、満面の笑みを浮かべたり、できたときの喜びは大きな声で歓喜を表したりと、見ていて飽きません。時には気分が乗らず、何をしてもうまくいかない時もありますが、そういった日々を過ごす中で、「共汗教育」を感じます。うまくいくことだけでなく、うまくいかない時はどうすればいいか、考えて考えて私自身も成長するきっかけとなり、一緒に過ごす日々が楽しいです。

また、「ほかにわの魅力」働く思い、についての意見発表やグループ討議で、福祉の魅力、進化を考える一日となりました。(恵理)



法人役員紹介

令和5年11月より
第三者委員となって
頂くことになった
『本田紘平』氏です。



※第三者委員とは…苦情申出人あるいは苦情解決責任者が要請した場合、両者の話し合いに立ち会い、必要な対応をします。

売りたいか。なう

口之津港ターミナルビル内の売店「はあとふる」の最新の当店売上No.1をご紹介します。(有)蘇州林さんの「麻花巻」です。長崎県民はこのお菓子を「よりより」と呼び親しまれています。食べたらずまらなくなる美味しさで、人気堂々1位！当店では長崎のお土産や、「ほかにわ」手作り小物、クッキー等多数取り揃えていますので、一度お立ち寄り下さい。



『麻花巻』



(林田) さをり織りのぬいぐるみ

マイフォーム マイコレクション

一日の仕事を終え、愛妻の手料理をつまみに一杯目のお酒が喉元を通る瞬間が至福のひと時である。

ビールでスタート、お刺身の時は日本酒にこだわり濃い目の味の料理の時は芋焼酎を楽しんでいる。

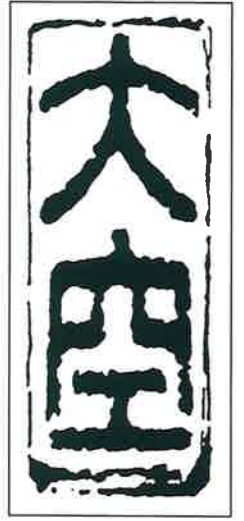
自分をほめるとき、落ち込んだ時に飲む一人酒はスコッチ・シングルモルトウイスキーをロック、ストレートで飲む。シングルモルトのロールスロイスと絶賛されている「ザ・マツカラン」とスコットランド アイラ島の「ラガヴーリン」が気に入っている。加津佐町

津波見から見る息のむ夕日をつまみに琥珀色のウイスキーとのマリアージュ

人生最高私の夢！

(八雲寮 福田義郎)





笑顔溢れる忘年会

昨年の忘年会は南有馬町にある割烹「城」にて開催されました。

当日は天候も良く、皆さんとても楽しみにされていました。開会では自治会長の挨拶と、寮長の言葉をいただき、宮崎功さんの乾杯で始まりました。待ちに待った忘年会の外食で、みんなと会話を楽しみながらたくさんのご馳走を頂きました。食事に夢中になっている中、ステージでは余興が始まり、利用者の皆さんに楽しんで頂けるようにゲームを考え、千本引き、カラオケを行いました。景品は何かな...とワクワクしており、自分の手元になると早速中身を開けられ、待ちきれない様子でした。毎年恒例のカラオケでは自慢



最後はみんなで万歳三唱！楽しい忘年会でした

映画鑑賞へ行ってきました！

アミュプラザのユナイテッド・シネマ長崎に行ってきました。久しぶりに長崎市内までの遠出ということもあり、旅行気分です移動中の車内でも楽しく会話する様子が見られました。

昨年の11月に新館がオープンしたアミュプラザ。目に映るものすべてが新鮮で映画の上映までの間も周りを探検しながら、一人ひとりが楽しい時間を過ごしました。映画の上映中は大画面のスクリーンに映し出される臨場感あふれる映像を見入るように観賞され、帰りには「また映画を観にいきたい」と楽しみにしている様子が見られるなど、有意義な小グループ活動となりました。

(吉田幸弘)



千本引きの様子



熱唱中♪

の歌声を披露し、職員と共に歌って踊っての大盛況でした。最後は城山勇次さんの万歳三唱と「来年は俺に任せろ！」で締めくくりました。皆さん本年も笑顔溢れる楽しい一年にしてくださいませ。

(松本竜平)

障害者支援施設 八雲寮広報部



今後の行事

2月予定
節分
年祝い

3月予定
活動発表会

Happy New Year

おせち料理はお節句に神様にお供えした食べ物が始まりです。おせち料理を年神さまにお供えし年神様とともに食べることで幸せな一年となるように祈ります。料理の一つひとつにもおめでたい謂れがあります。例えば黒豆は一年中「豆に働く」「豆に暮らせるように」紅白なますはお祝いの水引をかたどったもの。昆布巻きは「よろこぶ」語呂合わせです。えびは腰が曲がるまで健康であるように、という長寿の願いです。おせち料理に込められた意味を理解し今年一年元気で過ごせますように心を込めておせち料理を提供しました。

(高橋亮子)



寒い時期にはお鍋が一番

夏・秋野菜の収穫を終え、休日の時間を活用し、今度は何を植えようかと利用者さん・職員の皆で考えました。寒い時期の野菜となると、色んな野菜が思い浮かびます。珍しい野菜を育てるのもいいですが、やはり、普段の食事に良く使う野菜にしようとお白菜・大根・水菜を育てることに決定しました。

大根・水菜は、畝に種を直播きしていきます。白菜はポットに種を2〜3粒ずつ播いてある程度成長させてから定植へ。寒さ厳しくなる季節です。自家製野菜を食べて身も心も温まりますように。

(中村 要平)



白菜を植え付ける 木下栄一さん

がんばらんば宣言

今回ご紹介するのは・・・？



山口安行さん

加工班で頑張っています。これからも体に気をつけて元気に過ごします。

じゃがいも雑感！

八雲寮に配属になり九ヶ月が過ぎました。日中系からの異動になり戸惑っています。慢性的な人手不足で職務もマニュアル一枚で動きますが、一〜十まで聞きながらの業務と夜勤など「わからないことは聞きなさい」と言われた昭和育ちで良かったと感じました。

これは私事ですが、今年は辰年還暦となります。「六十歳で生まれ変わり、また人生のやり直し」とうちの住職の説教にあります。今までの健康に感謝しつつ、心穏やかに六〇年間を振り返り、これからの生き方を思い描いていきたいと考えます。あと何歳若かったらなど思ったこともありましたが、若返ることはできませんが、いつでもやり直せると思っています。

(主任 山本 智恵美)

いっしょに

1月号 No.212

デイ雲の年末・年始

コロナ禍の自粛ムードから解放された令和五年は様々な法人行事も通常開催に戻り、デイ雲の年末年始も久しぶりに賑やかなものとなった。

笑顔いっぱい忘年会



十二月十三日、一年の締めくくりとして、利用者忘年会を町内の魚勝で開催致しました。食事を楽しみながら一年の労を労い、共に健康で元気に過ごせたことへの感謝の会となりました。



高木トシ子さんの音頭による万歳三唱で締めくくり

はおまけ付きのメダルが渡され、楽しい余興となりました。普段、作業や文化活動などに活動をしている仲間と、楽しい時間を過ごす事ができ、皆さん大満足の様子でした。今年一年の思い出は、きっと新たな年への活力となった事でしょう。(濱田)



Happy Christmas

一年前はコロナ禍のために中止となったクリスマス会も、今年度は通常通り開催することができました。冬休み中の放課後等デイの子どもたちも加わり、紙芝居・絵本の読み聞かせやプレゼント交換を行い、とてもにぎやかで楽しいものとなりました。最後にケーキのプレゼントもあり皆さん大変満足されたようでした。(小山)



新年初笑い!

1月11日、正月遊びを行いました。今年は「年初め運だめし大会」という趣旨でまずは「おみくじ」引きを行いました。大吉・中吉・小吉の中、皆さんドキドキしながら確認。大吉のが当たった人は大喜び!次は「坊主めぐり」。最後は「糸引きお宝当て」で糸の先についたお菓子などなどの大物狙いに真剣でした。午後からは、ティータイムを行い皆さん「運だめし」の話で盛り上がり、笑い笑顔いっぱいの初笑いの一日となりました。(熊本)



普段は木磨きの作業ですが、今年の春頃から色塗りの作業を行うようになりました。どんな色を塗れば良いのかなど考えながらの行程はとても楽しいようで、休憩時間も忘れるくらい没頭しています。もっと沢山の商品を作りたいたい意欲满满です。



今回紹介するのは、木工班で作業をしている谷口文雄さんです。



美化活動で地域へ貢献

12月14日地域奉仕活動として「うみやま海道清掃」に参加しました。季節外れの海岸清掃となりましたが、終了時には意外にも多くのゴミの山が…。参加された利用者の方々もきれいになった海を眺めて地域の美化活動に貢献できたことを実感されていました。(高松)



(高松)

行事予定2・3月

- ・節分
- ・合同年祝い
- ・活動発表会

※状況により延期・中止になる場合があります。

雲と虹



新型コロナウイルス感染症が五類となり日常生活が以前にもどり始めた令和五年も終わり、新しい年を迎えました。デイ雲にとって大切な活動発表会が二月に行われます。昨年までは、自粛の為外部や各事業所からの出し物をビデオに撮り、当日会場の方々は楽しく鑑賞されていました。会場も無観客の活動発表会が続いていましたが、今年はお客様を招待し、全ての演目を会場で行う事となりました。利用者の方々、職員共に全力で練習に取り組んでおります。舞台上でお客様に直接見て頂く事の有り難さや、達成感を通し、何よりも人と人とのふれあいの大切さを改めて実感出来る行事になることでしょう。

副主任 光長まゆみ

悠炉里

共同生活援助事業所

(介護サービス包括型)

悠炉里広報誌

テーマ「温故知新の災害対応とは」

施設長 志賀 常盤

令和六年の幕開けと同時に、石川県を震源とした地震が発生した。その被害は日を追うほどに全貌が明らかとなり、我が施設に置き換えて考えると心が痛むと同時に責任の重大さに身が引き締まってしまう思いである。

私自身の経験談であるが、平成七年一月十七日早朝五時に起きた阪神・淡路大震災を兵庫県宝塚市で生活していた時に被災した。また、平成二十三年三月十一日に起きた東日本大震災の際には島原半島災害ボランティアキャラバンとして、宮城県南三陸町にて活動を行ったことがある。

どんな災害であっても、どんなに離れていても被災者を思う気持ちが大切であり、いつ打ちが被災者になるかわからない。私たちの施設には利用者が生活しているわけで、支える立場の施設職員として立ち向かわなければならぬ。しかし、施設職員には当然ながら家族が存在する。どちらが大切であるかという話ではなくどう対応すべきなのか話し合い確認しておくことが重要である。過去の教訓を胸に刻み日々安心して安全な施設作りを目指していきたい。

B ユニット Xmas 会

12月に入ると一気にクリスマススムードも高まり、人も街もウキウキと楽しい気分が盛り上がる中、6つのホームが一堂に会しクリスマス会を開きました。



(可愛いケーキ屋さん)

普段はホーム毎に夕食作りをしています。今回はホームをシャッフルして、クリスマスケーキやカレーを作りました。不慣れな包丁で果物を切ったり、玉ねぎや肉を焦げないように気を付けて混ぜたりと一生懸命な姿が見られました。やはりケーキのデコレーションは女性のセンスが光り、とても素敵なケーキに笑顔が溢れました。また、自作のカレーは何杯もおかわりする程の出来でした。こういう活動を通してホームを越えた交流がより一層深まっていけばいいなと思いました。

(池永裕介)

スポットライト



宮川あゆみさん

悠炉里の生活楽しいです。自立に向けて、料理と掃除を頑張るぞ!!



1月号

自治会 餅つき

悠炉里恒例利用者自治会による餅つき大会が行われました。悠炉里も高齢化が進んでおり全員の参加は難しかったですが、我こそはという精鋭たちが集まり、ぺったんぺったんと軽快な音が響き渡りました。つきたての餅はホームで楽しく味わい餅つき大会の話に花を咲かせていた。



(参加者全員でべた餅作り)

新たな年の始まりを飾る鏡餅は、円満に歳を重ねるという意味もあり、皆さんの思いを込めた鏡餅で、幸多き年を迎える事を願う自治会役員でした。

(原川厚美)

利用者忘年会

年末も迫る中、悠炉里利用者忘年会が、開催されました。互いに健康に過ごせた一年に感謝しながら、食事を楽しみました。

余興では、カラオケ、間違いない盛り上がり、楽しまれていました。理事長からのビデオメッセージも皆さん喜ばれていました。

思うような行事が出来なかった昨今でしたが、以前の日常に戻りつつあった令和五年だったと思います。忘年会の皆さんの笑顔を見ると、日常の大切さをより一層感じました。出来ないではなく、どうすれば出来るかを考え、皆さんの喜びを最優先に考えていきたいと思えます。

(綾部佐吉)



(久しぶりの兄弟そろって忘年会)

いゆるらふ

昨年は、皆さんの笑顔がたくさん見つけた。グループホームの役割として余暇活動の充実が求められている事である。

行事や小グループ活動が従来の形に近い状態で実施ができた中で一番に感じたのは、皆さんの最高の笑顔だった。「またしたいな〜また行きたいな〜楽しかった〜」等の声を聞け楽しんでる姿を見る事が私自身、この仕事のやりがいとする事に繋がっている。

今年は、皆さんと一緒に支援員全員が小グループ活動で全国各地を飛び回り、皆さんの笑顔に出会えるのを楽しみに、それぞれが仕事のモチベーションに繋がってもらいたい。

主任 (大場康生)

今後の行事

- ・成人式
- ・年祝い
- ・小グループ活動 (福岡)

我ち愛

障害福祉サービス
ワークネットやはた
広報誌 1月号

謹んで新年のご挨拶を申し上げます

施設長 原田秀範

日頃から当事業所の運営に御理解と御協力を賜りまして心よりお礼申し上げます。

昨年は、コロナ感染症が五類に引き下げられ以前の活動に戻りつつ嬉しく思っているところであります。昨秋、四年ぶりの一泊家族旅行を実施したことに触れますと、結果インフルエンザ集団感染と相成ったことは誠に残念な結果を招き申し訳ないことでしたが、相反し二日間の時間を利用者様を中心に、「ご家族と職員が共有できたこと」は、それに代えがたい信頼や安心感が生まれたことを実感しております。身近に触れ合うことがいかに必要なものか。さて、就労支援サービスにおきましては、就労選択支援事業なるものが新たに創設されます。その事業内容も明確化されつつありますが、段階的に令

今後の行事予定

- ・ 節分
- ・ 歳祝い
- ・ 誕生日会



今年もよろしくお願ひ致します
ワークネットやはた職員一同

もちつき

12月28日に、当事業所、八雲寮、デイ雲合同で餅つきを行いました。感染症予防のため利用者、職員での開催。餅丸めでは、上手に丸められたりそうでなかったり…もちとり粉が鼻や頬に付いてたりと、お茶目な場面も見られ楽しい時間となりました。(小笠原)



プレゼントにワクワク



ティッシュ運びゲームに真剣!

2023 お疲れ様でした

今回は、趣向を変えてクリスマス会と忘年会を町内の飲食店で同時に開催しました。サンタクロースの衣装を着た職員が登場すると大きな歓声に包まれ笑顔でプレゼントを受け取られていました。

余興のゲーム大会では、作業班別対抗で優勝目指して盛り上がりました。

今年も感染防止に努め元気に楽しく頑張りましょう。(松本)



中華いただきます

ワークネットやはたの今日のこの人

今回は「阿比留 浩」さんです。



Q今、頑張っている事は?

「作業で箱折りを頑張っています」

Q休日の過ごし方を教えてください

「悠炉里で仲の良い、小笹さんのグループホームに遊びに行き楽しく話をしています」

Q他にも興味がある事を教えてください!

「歌が好きで、松坂慶子さんの愛の水中花を聴いて上手く唄えるように練習しています」

1月1日に、誕生日を迎えられた浩さん。おめでとうございます。これからも元気にワークへ通ってきてくださいね。

園芸班のお仕事

園芸班では、施設外就労として地域の農家へ農作業に行ったり、市の委託で公園や団地等の除草作業を行っています。天候次第では作業が長引いたり予定通りにならないこともありすが、気合は充分!寒さに負けずに頑張っています。

地域の方々と交流を深め工賃向上に向けて施設外就労の場を広げていきたいです。(井上)



じゃがいも植えの様子

散歩道

十数年ぶりに一般のバレーボールチームの練習に参加してきました。メンバーも入れ替わり、当時のメンバーも数人・・・思うように体は動かず、恥ずかしさ反面、健康のためにと重たい体を動かしたとこです。昔のように動けません。そこでコミュニケーションや雰囲気は自分自身の気持ちを整えてくれます。まだ四十歳手前、まだできると思い込ませ、また挑戦していきたいと思えます。(主任 松尾 浩道)



(主任 松尾 浩道)

しほは、しほ

石川智広画伯作
『おせち』



経験した事ない事に対応する

デイ雲柿の木 所長 原口由紀子

なっています。

令和六年の幕開けは、石川県能登地方地震による、能登北陸大震災の被災地がテレビに映し出された衝撃の元日でした。コロナ感染防止のため、できなかった故郷への帰省が再開されたお正月は、家族や親戚が久しぶりに顔を合わせる楽しい時間であったに違いないと思うと、言葉がありません。「数十年に一度しかない」と表現される非常に危険な災害予測が、警報として発令されることが、多く

福祉施設でも今年の4月から義務化される感染症発生時、自然災害発生時における業務継続計画作成がされています。

私は、二十歳の時に「長崎大水害」を経験しました。長崎市内銭座町で完全に運行不能となったバスから消防署員に背負われて氷水のように冷たい泥水の中を歩道橋に避難し、正徳寺で一晩を過ごしました。これまで経験した事のない雨量を経験したのです。それでも生活の場となるグループホームでのサービスの提供をどうすれば継続できるのか、何度協議を重ねても、現実的な対応

ーとしました。

小グループ旅行に利用者七名の方が参加されました。行先は、ディズニーランドとディズニースキー。主に、一般就労をされている方や、就労系のサービスを利用されている方を中心とした、日頃仕事や作業に精を出されている方をメンバーとしました。



キャラクターと一緒に

続！夢のドリーグラウンドへ

発起人は、前号でお伝えしたように、山崎さんですが、他の方達も初めてのディズニースキーの世界に、すっかり魅了されました。

久しぶりの宿泊旅行は、始めは利用者も職員も緊張していましたが、時間が経つにつれ、「あれが欲しい」「これをしてほしい」と希望を出されるようになり、二泊三日では時間が足りない程、楽しまれていました。



被り物ももちろん被りました

言の葉

近年、世間のテレビ離れが言われていますが、私も例外ではなく、決まって見るのは水曜日のお笑い番組だけになっていますがそんな中、今回の月9ドラマは長崎が舞台と聞いていたため、家に見ることはできませんでした。主に長崎市内が描かれているその物語は、いくつもその情景が使われており、長崎市出身の私は「これはあそこだな」と名探偵ばりの推理を楽しみました。

山崎さんは、「お土産もいっぱい買った。自分で働いたお金で旅行に行けて満足！」と話され、良かったと本当に思いました。
(園田)



みんなでハイポーズ★

議を重ねても、現実的な対応

安ばかりが募ります。

今年も良いのができました

毎年恒例の純国産『黒糖』の販売が始まりました。無添加のこの製品は、グリーン班が一年を通して畑で作ったさとうきびから作っています。暑い日の除草作業や、寒い日の窯焚き作業を経て出来た自信作です。

ぜひ、ご賞味下さい。(松永)



売店「これ波これ和」で販売中★

ようこそ柿の木へ★

未来さんは二年生。おしゃべりが大好きで、とても元気な女の子！よろしくお願ひします！



田中 未来さん



入江 忍 支援員

美味しいパンを作ります。よろしくお願ひします！



さて現在の私は、南島原市民となつて二十年が経ちますが、昨今では市のPRは、超がつくほどの有名人を起用し、経済浮揚に力点を置いているように思えますが、その成果は色々な評価があるでしょう。しかし、それにより観光業が盛んになり、地域復興に繋がりが、観光で来崎した方の中に、移住を希望する人が出てきてくれば、この過疎化地域の人材確保ができるのではと、テレビの力に淡い期待を抱いています。

(恵理)

令和六年一月六日 鬼火にて

郷土の偉人、永野萬蔵(4)

口之津歴史民俗資料館長 松本 昇

6. 栄光と挫折

萬蔵は、次の年も、その次の年も、タダみたいに獲れるカナダのカラフトマスの塩鮭輸出を日本に向けて続けた。こうして「サーモン大尽」とか「サーモンキング」と呼ばれるようになった。また塩鮭輸出のほかに、明治25年(1892年)ビクトリア市で始めた日本美術品店と日用雑貨品店は、毎年繁盛し、官庁街に支店を出すほどであった。その一方では、カナダの捕鯨会社で働く労働者(船員を含む)を日本から斡旋するなど、萬蔵の活躍は世人を圧倒するほどであった。彼は、ビクトリア市の日本人のあいだでは、押しも押されぬ存在になったのである。

しかしながら、飛ぶ鳥を落とす勢いの萬蔵に不幸の影が次第に忍び寄ってきていた。日本美術品店と日用雑貨店は、第一次世界大戦の影響のほかに、スピードを大切にす流通革命についていけず、店舗を縮小せざるを得なかった。それでも、売れ行きが落ちていった。また、ビクトリア市の大通りに建てた3階建てのレンガ造りの豪華なビルは、焼失したあげく、人手に渡ってしまった。だが、何とんでも無念なのは、萬蔵が肺結核にかかったことだ。大正中期(1920年前後)にこの病にかかることは、死を宣告されることと同じだった。体力に自信のあったさすがの萬蔵も、この病の前にはひれ伏さざるを得なかったのである。

7. 帰郷

大正10年(1921年)、萬蔵は3番目の妻・多興子夫人を伴い、口之津に帰った。萬蔵は療養を続けていたが、死に際に「もういっぺん、カナダに行ってみたい、のう、多興!」といて、苦しい呼吸の中で永遠の眠りについた。時に大正13年(1924年)5月13日のことであった。享年70歳。墓は口之津の玉峰寺にある。

1977年にカナダで日系移民100年祭が行なわれた時、カナダ政府は永野萬蔵を日系移民第1号として認定した。そして、その記念としてコロンビア州にある1955メートルの山を「マウント・マンゾー・ナガノ」と命名した。これは歴史的な快挙である。日本人の名前が世界の山に付いたのは、萬蔵のほかに、犬ぞりでグリーンランドを横断した植村直己氏と、地球物理学者にして南極観測隊の隊長でもあった永田武氏がいる。



永野萬蔵碑(玉峰寺)

去年(2023年)4月17日、萬蔵のひ孫にあたるカナダの元フィギュアスケート選手が先祖の墓参りを兼ねて当資料館を来館された。スケート選手を引退して父と同じ消防士になる前に、人生の区切りとして、どうしても先祖の墓参りをしたかったそうである。



母サリーとキーガン・メッシング

※西暦と永野萬蔵の年齢は『カナダの萬蔵物語』に依拠した。

(続く)



のである。性(の)の神(の)「佐代姫さま」のお働きの一つは豊作祈願ということ。稲穂を担ぎ鎌を持つというそのお姿は、まさしくそれに適うと云うことが出来る。そのようなところからこのお像が「佐代姫神」と理解され、お詣りの人たちの諸々の祈願、そしてその成就の時、の陽根奉納となつたのだから、なかるうか。

福祉文化史で見る



「としきのフラット」から「としきの福祉文化史で見る」になったが、私と同じような文化視点を有する研究者にウエブサイトで出会った。その御人曰く「歴史は一つの側面だけでなく、当時実際にあった、どんな小さなものにも目を通すことでより重層性と深みが出てくる」と指摘している。私は、「重層性と深み」を三輪法で重なり合うシャドウの議論と理解した。そして、研究視点が同じ方向性であれば、全く他人で会ったこともないのに身近に感じられるが、不思議なもので醍醐味がある。

ところで四年間のコロナ過の呪縛から解かれ、昨

例えばマントヴァ公国に三枚のダウン症の肖像画像があることから始まったのであるが、

例えはマントヴァ公国に三枚のダウン症の肖像画像があることから始まったのであるが、

年秋頃から同窓会、親睦会新年会などが解禁されたことは喜ばしい限りだ。やはり人は絆を大切に生きて生かすものだ、そこには当然コミュニケーションが求められ、相交性が必然となる。前述したように、秋から新年を振り返ると、同窓会が三回あり、東京での少数民族文化学会、高知県と福岡での福祉施設士会は参加、福岡香春町の講演とコンサート及び鹿児島の中村隆重先生の出版記念祝賀会は一人旅の車だった。急がない旅は車も面白い。

私は、二〇一八年、兵庫美術館で開催されたプラド美術館のデゴ・ベラスケス展を鑑賞する機会を得た。本物との出会いである。キャンパスに描かれた倭人とダウン症らしき少年たちの視線は私の視線より高く感じたが、私ばかりではなかったと思う。



「バリエーカの少年」
ベラスケス(1635-45)
マドリッド・プラド美術館

謎解きの課程の中で、予期せぬことがあぶり出されたのである。つまり宮廷画家は、思想的にも科学に關しても造詣の深い人物たちであったのである。そして彼らは人文主義というキーワードで人格的にも複眼でみる客観性に富んでいたと言えるのである。

数多い島原半島内の「佐代姫さま」ゆかりの場所の中でも、北有馬町のそれはもつとも代表のものである。たとえ小さくても「佐代姫さま」のお名前を被る個のお社であるということ。短くても参道には木製ではあるが三基の、信者の方から奉納された朱塗りの鳥居が建つ。そしてお社に置かれる三体の像のお姿である。それは向かって左から、左手に鎌を持ち右肩に杖(おうこ)で稲穂を担ぐ可愛らしい娘よりの石造の立ち姿。そしてその周りには数多くの陽根が奉納されている。中央のお像は娘姿の坐像で、胸前に両手で小さな壺を持たれる。右側のお像は左手に蓮の花を持たれる観音様である。

島原半島の道祖神(さやんかみ)信仰の地を訪ねて②

北有馬町浦口地区「佐代姫大明神」

郷土史研究者 飯田清親